

刊ポスト』に掲載された自身のコメント(※)について、「取材を受けていない」というのだ。

〈三宅 君は僕に改めてインタビューしたことが1回でもあるか。1回もないじゃないか。この番組でやった(5月16日放送) 以外に機密費の話をしたことがあるか。勝手に君、記事を作ってたね。改めてインタビュー申し入れたら三宅がこ



7月11日放送の『たかじんのそこまで言って委員会』より

ういう風に述べた(と書いてある)。どういうことなんだ。まったく事実と反することじゃないか!

上杉 よく読んでください。私と『週刊ポスト』取材班でやってる仕事です。それはどうしてかという、特に対象者が広いので、分担してチームでやってるんですね。

三宅 それなら「私」と書くな! 「私」じゃないじゃないか。チームじゃないか。チームの誰かが聞いてるんだろ。そういう卑怯なことというなよ。チームでやってるから俺は関係ねえなんて。何をバカなこといつてんだ。関係ないことないじゃないか!

上杉 じゃあ三宅さんは、いままでの取材も含めて全部一人でやったんですか? 三宅 みんな一人でやりますよ

断わっておくが、ポストの当該取材について「私」とは書いておらず、記事冒頭にはきちんと取材班とのチーム取材であることを明記している。さらに私は「チ

ームと無関係だ」などとは一言もいっていない。

さらに三宅氏は過去の私の記事を引き合いに出し(これについては場を改めて反論する)、「気をつけなさいよ君」「一人前のジャーナリストみたいな顔するものじゃありません」「君の書いていることはいいかげんだと思われるんだよ」とまでいい放った。

なお三宅氏の暴走は止まらない。

〈三宅 取材班も何も(私は取材)されたことはないよ。ありません。されたのは、『週刊文春』の記者から電話があったことは事実。上杉 ポストですよ。

三宅 『週刊文春』の記者からは機密費問題でインタビューがあったよ。それ以外、『週刊ポスト』から取材を受けたことはありません!〜

こうして私の反論も聞かずに三宅氏が一方的に怒鳴り散らした後、右下に小さなスパーが流れた。

〈※ 収録後、番組から週刊ポストに確認したところ、

「三宅氏に電話取材した記録は、ある」との返答。三宅氏は、ポスト側が後日示した情報を元に「自分が電話で話した内容だ」と認めたものの「記者は、ポストとは名乗らなかった」と反論

この期に及んで「ポストとは名乗らなかった」とは

「機密費とは思わなかった」

いうまでもなく、取材内容を捏造したとなれば、それはジャーナリズムにとって死活問題である。事実、7月11日の放送中から、私のツイッターには、「嘘つき」「謝罪しろ」といった誹謗中傷が相次いだ。番組中のスパーに気付かなかった、あるいは見逃した視聴者や目の不自由な方は、

いまだに私と『週刊ポスト』が取材をでっち上げたと思いい込んでいる状態だ。こちらとしても反論しないわけにはいかない。

そこでここに、5月10日に『週刊ポスト』記者が三宅氏に対して行なった電話

……。収録で三宅氏は、私を「嘘つき上杉」とまで罵った。そこまでいうならば、どちらが「嘘つき」か、はつきりさせようではないか。ちなみにこの件について『週刊文春』編集部は、「編集部では確認できませんが、記者が質問はしたのかもしれない」と答えている。

取材の録音記録を公開する。まず、三宅氏は本誌記者の『週刊ポスト』記者の●●と申します」という自己紹介に、確かに「はいはい」と答えている。これをもっともまだ、「名乗っていない」と言い張るつもりなのだろうか。

このとき記者は、「機密費配布先リスト」に三宅氏の名前が書かれていた件について聞いた。

「それ(官房機密費)については、私も問い合わせを受けるのだけれども、それ(流出したリスト)は藤波孝生」さんのメモだというんだな(三宅氏、以下同)

※小誌5月28日号で掲載した三宅氏のコメントの主要部分は以下の通り。「第2次中曽根康弘内閣で官房長官になった藤波孝生は早大の後輩で、『急に忙しくなって、約束していた2つの講演ができないので、代わりにやってくれませんか』と頼んできた。引き受けることにしたら秘書が100万円を持ってきた。藤波のポケットマネーだと思って受け取りました。領収書も書いていない。しかし、内閣からカネをもらったことは一切ない」